

「専門は？」と聞かれると、「認知脳科学です」と答えることにしている。認知脳科学はどんな学問ですか？と聞く人がいれば、「心を脳のはたらきとして理解しようとする科学です」と答えるように思う。理系・文系の区別は、認知脳科学に必要ない。物理学者と心理学者が互いに語り合えるような場だと思っている。そんな風に考えるようになったのは、私の遍歴に原因があるようだ。

私は、高校の時からずっと物理学に憧れていた。進学するなら物理学科、と堅く心に決めていた。それがどうしたわけか、駒場の二期期の終り頃、急に生物学を勉強したくなった。究極の素粒子や宇宙構造の謎と同じように、生命現象は不思議に満ちている、と考えるようになった。そして三学期が始まる直前、物理学科で生物物理学を専攻しようと思いついた。今から思い返すと、この選択が私の遍歴の始まりであった。

本郷に移って、堀田凱樹先

生にお会いした途端、分子遺伝学の世界に引きずり込まれてしまった。どこまでが物理学で、どこからが生物学か、などというところはどこでもよくなった。「堀田のセントラル・ドグマ」とは、「遺伝子→脳行動」という決定論を指す。私の運命もまた、この

アメリカで報告された。何とかこの手法を使って、ヒトの認知行動を調べたい。日立と共同でfMRIの実験を始め、二年後、とうとうこの熱病が昂じて、fMRIのメッカであるボストンに向かった。実際、ボストン行きの飛行機の中では、五時間ごとに解熱剤のお世話になってしまっ

時に沿って

脳の決定論



酒井 邦嘉

セントラル・ドグマに決定されることになったのである。見つけた。またしても決定論だ、と私は思った。

なげなら、遺伝子レベルの知らず知らずのうちに、私の脳の中でも決定論が進行していたらしい。脳の次は行動だからである。折しも、医学部の宮下保司先生の新しい教材に参加することになって、

た年、fMRIという新しい脳機能イメージングの技術が(生命環境科学系・心理学)